

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟会長
河合 利幸

私の住む大阪では、ようやく秋風が肌に心地よい季節となってきました。今回の会場となる菅平高原ではもう秋も深まっているのでしょうか。一方で、日本の経済は秋どころか、冬風が吹き荒んでいるようで、大学勤めの私でさえ何か重苦しい空気を感じてしまいます。果たしていつになったら春の日差しを見ることができるようか。

そんな中で明るいニュースが飛び込んできました。ノーベル賞、それも2人も日本人受賞者が出たことです。これにはいろいろな意味があることでしょう。詳しくは新聞に譲るとしても、私には、とにかく不断の努力はいつしか実る、だから諦めずにトライし続けろということのように聞こえます。

日本のオリエンテーリング界も社会情勢を反映してか、今ひとつ上昇気流に乗れません。いや、低空飛行を余儀なくされていると言った方がいいのかもしれない。学連加盟員数や高校生オリエンティア数の減少、各種大会参加者数の伸び悩み。

今回のインカレショートは、そのような厳しい状況の中、全日本リレー大会とのタイアップで開催されます。それぞれの力を合わせて両方の大会を盛り上げようというアイデアです。今後は、インカレクラシック・リレーを含めた再編成も計画されています。WOC もだんだんと近づいてきています。学生、社会人を問わず、力を合わせて舟を漕ぐときが来ているのです。トライし続ければ、きっと晴れ間が見えてくるのではないのでしょうか。ワールドカップサッカー日本代表も今年の大会では健闘してくれました。今度は我々の番です。

選手の皆さんは、持てる力を存分に出し切れるよう準備してきて下さい。キャッチフレーズ通りの素晴らしいテレインがあなたを待っています。

最後になりましたが、仕事や育児、勉学の忙しい合間を縫って準備を進めていただいた実行委員会とその関係者の皆さん、本当にご苦労様でした。そして地元関係者の皆さんには、様々な面でご協力いただき本当に有り難うございました。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼申し上げます。あとは、さあ皆で祈りましょう、よき天候を。

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長
東北大学4年 米本路憲
(今回が初エリート)

いよいよ「秋のインカレ」、インカレショートの日が近づいてまいりました。菅平高原は自分が1年生のときにクラブカップリレーが開催されたところであり、自分にとって思い出深いテレインでもあります。クラブカップリレーのときに、「地図の精度は保障済み」と言った趣旨の宣伝文句があったように記憶しており(間違っていたらごめんなさい) 実際スムーズ(相対的)にオリエンテーリングが出来た地図でした(まあ、そのときは1年生でしたから地図の精度をどうこう言えたものではないのですが...)。ところがその地図すらも霞んでしまうような素晴らしい精度の地図がトレーニングマップとして提供されたようです。さすが最新の測量機器を投入し、最高レベルのノウハウを導入した地図。本番の地図がどのようなものになるか、そしてそのような最高精度の地図でどのようなコースが組まれるのか、想像しただけでもわくわくしてしまいます。

そして、参加者はそのような実行委員会の努力に応えるべく、最高のパフォーマンスを発揮する義務があると思います。参加者の皆さん、頑張りましょう。インカレはエリートのために開く大会ではありますが、エリートの「ためだけ」に開催されているわけではありません。やっぱり併設クラスでも表彰台に立って花束をもらうのはうれしいことであると思います(自分は併設ですら入賞したことはありませんが...)。インカレショートは「新人の登竜門」でもあり、新人の皆様のしのぎを削るレースを期待しております。今年は誰が期待のホープとして出てくるのでしょうか?楽しみです。

また、大会前日には(社)日本オリエンテーリング協会(JOA)の主催大会である全日本リレー大会があります。世界選手権を間近に控えた今、日本学連とJOAとの連携の重要度は大きく増していくものと思われます。この3日間を機に、学生の皆さんにも日本のオリエンテーリング競技における日本学連の役割を考えてもらったらいいな、などと思っております。

それでは、菅平高原で会いましょう。皆さんの健闘を祈っております。

ご挨拶

2002 年度インカレショート実行委員長
木村 佳司

全国の学生オリエンティアの皆さん、オリエンテーリング愛好家の皆さん、インカレショート菅平大会へようこそ。

この大会を目指して、皆さんは準備をしてきました。その過程において、それぞれが充実した時間を過ごしてきたと思います。さあ、これが仕上げです。これまでの準備の成果を全て、全国の学生オリエンティアの前で見せてください。その先には全力で競った者だけが到達できる素晴らしい世界が開けることでしょう。

私達、実行委員会は皆さんが全力で競技するに相応しい舞台を用意しました。その中で最高に輝くのは、主役の学生の皆さんにおいて他には居ません。

学生日本一を目指す人、決勝進出を目指す人、仲間の走りを応援したい人、新人賞を狙っている人、他大学のランナーに力くらべを挑みたい人、ナビゲーションと地図を楽しみたい人、紅葉の山を楽しみたい人・・・それぞれ目指す目的は違うと思いますが、日本中の学生が一同に集まってオリエンテーリングというスポーツに汗を流すというのは素晴らしい経験になるのではないかと思います。全国にはこれだけオリエンテーリングをやっている仲間がいるんだという経験を積み、平素のオリエンテーリング活動の励みにしていただきたいと思います。

インカレショート菅平大会は、参加される学生の皆様にとっても大きな挑戦ですが、実は私達運営者にとっても大きな挑戦の舞台となっています。というのも現在、日本のオリエンテーリング競技人口は減少しており、その減少に見合った運営サイズへの変換を行うことが、イベントを継続して行く上で不可欠になっています。

このためには効率的な人的資源と資金の使い方が必須となります。そのために今回は全日本リレー大会とのマルチイベント化を行いました。会場も資材も、マンパワーも、そして地図までもが全日本リレー大会と共通化します。

もちろんコース取りにおいて、全日本リレー大会とは極力違うように設定し、前日に全日本リレー大会に参加した人が有利にならないようにできる限りの配慮はします。しかしながら会場周辺のレイアウトの制約もあり、完全には分離することはできません。例えば最終コントロールが共通になるくらいはあり得ます。

オリエンテーリングはあるがままの山林や施設を利用して、しかも今回は同一会場にてマルチイベントを行う以上、こうしたある程度の制約があることを予めご了承ください。

インカレショートの前日に全日本リレー大会が開催されます。地元や出身地の名前を背負って走る学生のかたも大勢いらっしゃると思います。

学生時代にオリエンテーリングに没頭するのも、素晴らしいことだと思いますが、学生クラブ以外にも目を向けていただくと、より広い世界があるかも知れません。そういった願いと意図もこめてこのようなマルチイベントを企画させていただきました。

さらに、今回はインカレショート規模の大会を運営者が気楽に開催できる事を示すことも目指しています。最小限の運営パワーで最大限効率的な大会運営を目指します。

このように最小限の運営労力を目指していますが、競技のキモの部分である、地図とトレインに関しては、良いものが提供できると思っています。

この菅平高原のトレインは市街地から遠く、基礎となる地図の精度は少し怪しいものでした。またトレイン内は線上特徴物が少なく、なかなか地図上で点状特徴物の位置を確定するのが難しいトレインでもありました。今まではこの位置精度を確保するために調査者の膨大な労力が注がれていたわけですが、原図の歪みなどはどうしようもなく、地図がある程度歪んでいてもそれを修正する方法が無かったのです。

しかし最新のテクノロジーがこの状況を打破しました。GPS 測量の導入です。GPS 測量を使用するとこれらの点状特徴物の位置がピタリピタリと決まってきます。これによって調査効率が飛躍的に高まりました。調査者は今まで位置精度の向上に費やしていた労力を地図表現にけることができるようになったのです。

このことが調査者の意欲を掻き立て、地図は予想以上の仕上がりととなりました。当初は従来の地図の歪みをGPS 測量で取り除いた程度の地図になればいいかなと思って始めた地図調査ですが、もはや別物の地図ができあがってしまったといっても過言ではないでしょう。

この夏に行われたクラブカップ7人リレーに引き続き、日本国内の0-mapとしては2枚目の本格的GPS利用の地図となります。今後GPS測量の0-mapが増えて行くと思いますが、そのさきがけとなれると思います。

このような素晴らしいトレインで私達が競技できるのも、このような森や牧場や施設を守り、本大会の為に利用させていただくことを認めてくださった、数多くの地元の皆様のおかげです。ここに感謝いたします。皆様のおかげで、私達はオリエンテーリング競技を行い、こうして選手権まで開催できるのです。ありがとうございます。

参加される皆様もこうした方々への心遣いを決して忘れることなく、感謝の意を持って競技に望んでください。